

日本記者クラブ賞

橋本五郎・読売新聞特別編集委員、山田孝男・毎日新聞政治部特別編集委員に 政治コラムニスト 2人が同時受賞

特別賞は受賞なし

公益社団法人・日本記者クラブ（吉田慎一理事長）は4月28日、理事会を開き、読売新聞東京本社特別編集委員の橋本五郎、毎日新聞社政治部特別編集委員の山田孝男の両氏に2014年度の日本記者クラブ賞を贈ることを決めた。

2012年度に新設され、3年目を迎える特別賞は「受賞なし」となった。

橋本五郎さんは政治記者として40年以上の経験を重ね、読売新聞に毎月、コラム「五郎ワールド」を連載している。歴史を振り返り、古典を引用し、老いや死を考える筆致は読者の共感を呼び、ジャーナリズムの成熟を示したと、高く評価された。

山田孝男さんは毎日新聞に毎週連載しているコラム「風知草」で、当事者や専門家への取材を重ね、隠れた事実を発掘している。東日本大震災以後は原発問題に取り組み、浜岡原発の停止を訴え、小泉純一郎元首相の原発ゼロ発言を特報した。世の中を動かす問題提起型のコラムでインパクトを与えたことが、高く評価された。

6月16日に受賞記念講演会を開催

日本記者クラブは受賞記念講演会を下記のように開催します。日本記者クラブ賞を受賞した橋本五郎、山田孝男両記者が、取材体験や政治報道について対談形式で語り、参加者の質問に答えます。

出席者：橋本五郎・読売新聞東京本社特別編集委員
山田孝男・毎日新聞社政治部特別編集委員

日時：6月16日（月）午後6時～7時30分

会場：日本記者クラブ 10階ホール

定員：200人（申し込み先着順）

参加費：無料

日本記者クラブ会員だけでなく、一般の方も参加できます。ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

<応募方法> 住所、氏名、電話番号、年齢、参加人数（2人まで）を記入のうえ、メールでお申し込みください。折り返し参加の可否をご連絡します。

申し込みアドレスはこちら kinenkoen@jnpc.or.jp

*折り返し参加の可否をご連絡します。

*いただいた個人情報は本講演会以外の目的には使用いたしません。

【贈賞の理由 受賞者の紹介】

日本記者クラブ賞

橋本五郎（はしもと・ごろう）読売新聞東京本社特別編集委員



政治記者として長い経験を重ね、読売新聞に毎月、コラム「五郎ワールド」を連載している。わかりやすく政治の世界を解き明かし、複雑な政治と読者との距離を縮めた。直近の政治だけでなく、老いや病、死といったどの人間も向き合うテーマをとりあげ、自分の死生観、人生観を穏やかに語っている。古今東西の古典や著作を豊かに引用し、歴史に学び、グローバルな広がりや踏まえ、温かい目線で読者の共感を呼んだ。政治コラムの新しい境地を切り開いた。テレビ・ラジオ番組のレギュラー出演も多く、ソフトな語り口と的確なコメントで本質を突き、視聴者の理解を深めた。世の中の「なぜ」に答え、

みずから主張するすべのない人の側に立ちたいという原点を44年間の記者人生で貫いてきた。新聞離れや活字離れが懸念される中、ジャーナリズムの成熟と新しい役割を示したことは日本記者クラブ賞にふさわしいと高く評価された。

橋本五郎記者は1946年12月秋田県生まれ。67歳。慶応義塾大学卒。70年読売新聞社入社。1976年から政治部。論説委員、政治部長、編集局次長などを務め、2006年から特別編集委員。2011年3月まで「ズームイン!!SUPER」（日本テレビ系列）に出演。現在、読売テレビ「ウェークアップ！ぷらす」にコメンテーターとして出演している。著書に『範は歴史にあり』『「二回半」読む』（共に藤原書店）、『総理の器量 政治記者が見たリーダー秘話』（中公新書ラクレ）、『新聞の力—新聞の読み方で世界が見える』（労働調査会）などがある。

日本記者クラブ賞

山田孝男（やまだ・たかお）毎日新聞社政治部特別編集委員

毎日新聞に毎週、連載するコラム「風知草」で、当事者や専門家への取材を重ね、ニュースを発掘している。東日本大震災後は原発問題を丹念に取り上げ、隠された事実を提示し、新聞の役割を読者に示した功績は大きい。特に、「小泉純一郎の『原発ゼロ』」（2013年8月26日付朝刊）は、小泉元首相の脱原発に踏み出した発言を独占インタビューで特報した。大きな反響を呼び、原発の是非をめぐる論争を社会に巻き起こした。また、中部電力浜岡原発の危険性を指摘し「浜岡原発を止めよ」（2011年4月18日付朝刊）と主張したのを皮切りに、政権内の動きを4週にわたってコラムで追及した。論議が深まる中、菅直人首相（当時）が運転停止を中部電力に要請する事態に至った。いずれも、問題提起型のコラムが実際に世の中を動かした例であり、ジャーナリズムの活性化にインパクトを与えたことは、日本記者クラブ賞にふさわしいと高く評価された。



山田孝男氏は1952年3月東京都生まれ、62歳。早稲田大学卒。1975年毎日新聞社入社。長崎支局を振り出しに、東京本社社会部などを経て84年から政治部。福島支局次長、政治部長、編集局次長、編集局総務を経て、2007年10月から政治部専門編集委員、同年12月から月曜朝刊コラム「風知草」を連載している。2014年4月から政治部特別編集委員。著書に小泉元首相の脱原発発言の独占インタビューと日本記者クラブでの会見をまとめた『小泉純一郎の「原発ゼロ」』（毎日新聞社）がある。

* * * * *

【日本記者クラブ賞と日本記者クラブ賞特別賞について】

日本記者クラブ賞は、千葉雄次郎氏（元日本新聞学会会長）が同クラブに贈った寄託金を基金として1972年、創設された。その後も、クラブへの寄付金を基金に積み増し、賞を運営している。報道・評論活動などを通じて顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた日本記者クラブ会員および法人会員社に属するジャーナリスト個人に贈る。今回の橋本、山田両氏を含め、受賞者は計49人になる。

日本記者クラブ賞特別賞は、クラブ賞創設40年を機に、より開かれた賞をめざして2012年度に新設された。原則としてクラブ会員以外の内外のジャーナリストやジャーナリズム活動に贈る。ジャーナリズムの向上と発展につながる特筆すべき業績や活動を顕彰する。初の受賞となった2012年度は、東京電力福島第一原発水素爆発の瞬間を撮影、放送した福島中央テレビ報道制作局と、震災後、手書きの壁新聞を作りニュースの発信を続けた石巻日日新聞、2013年度は、シリアで銃撃され死亡したジャーナリストの山本美香さん（「ジャパンプレス」所属）に贈られた。

いずれも日本のジャーナリズムの高い水準を示す表彰であり、日本記者クラブの公益目的事業のひとつである。

日本記者クラブ賞歴代受賞者一覧 <http://www.jnpc.or.jp/activities/award/awards-prize/>